

第8回江東区長期計画策定会議 会 議 録

日時：令和元年11月29日（金）18:30～20:00

場所：江東区文化センター5階第6会議室

【会議次第】

1. 開会
2. 事務局連絡
3. 長期計画（骨子案）について
4. 分野別計画（素案）について
5. 閉会

【出席者】

<委員>（敬称略・順不同）

青山 侑	吉武 博通	竹之内 一幸	川上 嘉明
植田 みどり	草場 光男	内海 静香	大池 篤
森 祐起	三宅 由美子		

<事務局職員>

政策経営部部长 大塚善彦	政策経営部参事 高垣克好
企画課長 油井教子	財政課長 岩瀬亮太

【傍聴者数】 0名

【議事概要】

1. 開会

■会長

それでは、これより第8回江東区長期計画策定会議を開会いたします。委員の皆様には、ご多忙のところご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

2. 事務局連絡

■会長

最初に事務局より連絡事項がございますので、どうぞお願いします。

■政策経営部長

まず、始めにお詫びを申し上げさせていただきます。11月6日に予定しておりました長期計画策定会議ですが、内部的な調整が整わなかったため、折角お忙しい中ご予約をいただいていたところですが、開催できずに申し訳ございませんでした。スケジュールも厳しくなってきたところではございますが、引き続きご協力いただければと存じますので、よろしく願いいたします。

■事務局

まず、お手元の資料の確認をお願いします。席上に配付いたしました「会議次第」に配布資料の一覧がございます。それぞれの資料の右上には資料番号を付しておりますので、資料一覧とご照合いただき、ご確認をお願いしたいと存じます。資料に不足がございましたら、お申し付けください。

資料についてご説明いたしますと、第7回の会議でいただいた意見メモの内容を整理した一覧を資料1として、会議録を資料2としてお配りしております。また、長期計画の前段にあたる骨子案の概要を整理しましたものを資料3-1、全文を資料3-2、分野別計画の素案を資料4としてお配りしております。なお、参考資料として、区民アンケートの結果概要版を参考1、分野別計画（素案）に掲載する成果指標を整理しました一覧を参考2、分野別計画の修正箇所を一覧にしたものが参考3になりますので、あわせてご確認をお願いします。

事務局からの説明は以上でございます。

■会長

資料についてはよろしいでしょうか。

(質疑無し)

3. 長期計画（骨子案）について

■会長

本日の内容については、長期計画の骨子案と分野別計画の素案の主として2つについて議論いたします。長期計画骨子案が提示されるのは、今日が初めてとなります。分野別

計画の素案は、これまで議論してきたものとなります。前半は長期計画の骨子案、後半は分野別計画と分けてご審議いただきます。今回が事実上の最後の議論の回となりますので、そのつもりでご議論いただきたいのと、今後の言葉の表現や細かい調整は委員長と事務局に一任していただければと思いますのでよろしくお願いたします。

■事務局

それでは最初に骨子案の説明をいたしますので、資料3-1と資料3-2をご覧ください。資料3-2の目次をご覧くださいでしょうか。第1章から第6章、それと資料編で構成されており、骨子案の部分は第1章から第4章となっております。第5章は、この後ご説明させていただく分野別計画となっております、第6章は主要事業となっております具体的な事業が記載されております。

まず、第1章「長期計画の概要」からご説明いたします。策定の概要となっております。4ページに、基本構想に掲げる将来像「みんなでつくる伝統、未来 水彩都市・江東」を実現するために、区の取り組みの方向性をまとめたまちづくりの羅針盤として目的が記載されております。基本構想の後半の10年間、これまでの10年の「次なるステージ」として策定したということです。また、50万人都市江東として、さらなる発展を見据えた未来志向の取り組みを積極的に推進するとしています。検討にあたりましては、社会動向の変化や現状の課題だけでなく、区民会議やパブリックコメント、外部有識者等から構成される会議などで本区の特色や今後重要となる考え方について広くご意見をいただき、計画に反映しています。また、重点的・優先的に取り組むべき課題として、この後出てまいります重要課題及び戦略プログラムを設定し、区全体で総合的に取り組むこととしています。

続いて、5ページですが、こちらが「長期計画の位置づけ」で、基本構想の実現に向けた江東区のまちづくりと区政運営の具体的指針であり、各部門別計画の上位計画であることを、こちらに記載しております。

6ページですが、まず「体系と計画期間」ということで、計画の体系ですが、基本構想がピラミッドの頂点となっていて、こちらの長期計画が真ん中、一番下に各事務事業があるといった体系図となっております。計画期間は令和2年から11年までの10か年で、前期と後期各5年となっております。

7ページの計画の「進行管理」ですが、外部評価を取り入れておりました行政評価システムを活用してPDCAサイクルにて推進する旨を記載しています。

8ページから9ページになります。こちらは第2章となりますが、「策定時の社会動向」として、江東区のみならず日本全体の特徴、動向、時代の流れを記載しております。「1. 人口動態と少子高齢化」ですが、急速な人口減少と高齢化に直面しており、このためサービスの総合・複合的な対策が求められています。「2. 経済と雇用の状況」では、人手不足の状態が続いており、各自治体には2020年の先を見据えた地域経済、戦略的な財政計画の立案が求められています。「3. グローバル化と多様化」では、外国人旅行者数や在

留外国人が過去最多を記録しており、就業する外国人も増加しています。国では「外国人材の受け入れ・共生のための総合的対応策」として、外国人に等しく就労、教育、医療や災害時の支援等が届く環境整備を進めていくとしています。日本人と外国人の双方が、安心して安全に暮らすことのできる「共生社会」の実現が求められています。「4. 情報通信技術の進展」では、人工知能やビッグデータなど社会のあり方に大きく影響する技術の開発が進んでおります。また国では超スマート社会「Society5.0」を進めていくとしており、自治体においても、ICTの活用が必要となる旨を記載しています。「5. 自然環境と循環型社会」では、日本のみならず世界的に気候変動対策が必要となっている旨を記載しています。「6. 公共施設等の老朽化対策」では、インフラ資産と公共建築物の老朽化が進んでおり、本格的な財政負担の増大が予想されることと、人口減少を見据えた新たな機能への転換や民間活力の導入が求められている旨を記載しています。

続きまして10ページ、第3章「計画の推進」です。ここでは、人口構造の変化、雇用などの経済状況の変化、自然環境の変化など、時代の変化はますます大きくなり、区が対応すべき課題も一層複雑になっているとしています。計画を推進するにあたって、地域課題の解決の主体は行政だけではなくより大きな視点から捉えていかなければならないとして、3つの視点をあげております。

まず、「1. 協働の視点に立った課題解決」です。基本構想に掲げる区の将来像を実現するためには、行政だけではなく、地域の実情や課題に一番身近な区民や市民団体等が主体となって地域課題の解決に取り組むとして記載しています。

次に、「2. SDGs（持続可能な開発目標）を踏まえた取り組み」です。国連サミットで採択されました2030年までに世界中で取り組む17の国際目標で、こちらを本計画の各施策の取り組みが繋がっていくということで、本計画に掲げる施策を通じて17の目標に貢献していくといった視点です。

最後に、「3. ICT利活用の推進」です。ここでは、Society5.0の推進など、ICTの利活用が区民サービスの向上や、地域課題の解決に必要不可欠であり、行政内部においてもICTの利活用により効率的な運用を進めていくことを記載しています。

つづきまして、14ページにまいります。「計画推進の前提」で「1. 計画人口」ですが、江東区は5年間で52万人から57万人へと5万人増加していきます。年少人口、生産人口、高齢者人口及び外国人人口のすべてで増加しますが、高齢者人口については後期高齢者が前期高齢者を上回り、本区は前期高齢者が多いということが特徴であったのですが、これからの10年は後期高齢者施策等が課題となってくることとなります。年少人口はゆるやかな増加をしていくといった特徴があることが記載されています。また、臨海部は引き続き人口がかなり増加していくことと、城東地区は10年後も横ばいで推移していくこととなっております。

16ページ、17ページには、財政計画や都市計画について、後から記載される予定となっております。

18 ページですが、「4. 施設整備・改修計画」として、公共施設の老朽化に対してのどのような方向で考えるか、その基本方針と、具体的に10年間で行う施設の新規整備について、今検討中でございますが今後記載されます。

19 ページが区役所本庁舎建設に向けた検討ということで、本庁舎は昭和48年に建設されて既に46年が経過し老朽化が進んでいます。本庁舎の建設には、計画から竣工まで10年をはかるとされており、築60年から65年を目安として建設の準備を進めていかなければなりません。この長期計画の前期におきましては、新庁舎の建設の基本構想を策定するため、区民、議会、学識経験者等の意見を集める検討委員会を設置し、議論を重ねてまいります。他自治体の事例を参考に、複合化や民間活力を活用した整備方針の検討等について、こちらに記載しております。

つづいて、第4章になります。ここでは区の重要課題・戦略プログラムを説明しています。

区の長期計画を行う上での重要課題として、現行の計画では2つございまして、築地からの豊洲市場移転の問題と、中央防波堤埋立地の帰属問題がありましたが、これからの重要課題として、「地下鉄8号線の延伸」としてひとつあげさせていただいております。こちらは区の南北交通として非常に重要なことでして、これが実現することによって、区内外の南北交通にかかる所要時間の短縮や、地下鉄東西線をはじめとした周辺路線の混雑緩和、賑わいや活気あるまちづくりを進めていけるといったところで、重要課題としております。これまでの2つの重要課題については前段に記載しておりまして、中央防波堤埋立地の帰属については東京地裁の判決により一定の決着がついたこととなりますが、しかしながらこの地域は本区にとって大変ポテンシャルが高い地域で、この地域のまちづくりの進め方や新海面処分場の問題について都に働き掛けていく必要があるなど、引き続き課題があるということで記載しております。豊洲市場につきましても、市場の開場はいたしましたが、「千客万来施設」の開場が令和5年度に控えていることや土壌汚染対策等を都に求めていく必要があること、周辺のまちづくりの進め方について、引き続き課題として取り組んでいくということで記載しています。

つづきまして、22ページの「戦略プログラム」です。現行の計画では「重点プロジェクト」として7つの体系ごとにあげていましたが、今回の「戦略プログラム」は、組織間の重層的な取り組みでは連携が必要不可欠であるという視点に立った7つの戦略としていきます。区の施策は縦割りである、施策の間にあることはどうするのかといったご意見を頂戴しておりましたので、それを踏まえ、「チーム江東」一丸となって相互に連携を図りながら課題解決をしていくといった姿勢を示したものです。

まず23ページの「戦略1 水彩・環境都市戦略」です。水辺の賑わいの創出、5Rの推進、脱炭素に向けた幅広い世代への環境教育、質の高い緑化、景観、木材利用、喫煙マナー、ごみの発生抑制など、様々な部分で水彩・環境都市を目指すとしています。

つづいて24ページの「戦略2 こども未来づくり戦略」です。こちらは、切れ目のな

い母子保健、多様化する子育て・教育ニーズに対応していくこと、子ども家庭支援センターによる在宅で子育てをしている家庭への支援、児童相談所の整備、学校教育においてはICT環境の充実、障害をもっている子どもや特別支援教育を必要とする子どもに対して特性に応じた対応、子どものいじめ引きこもり対策・居場所づくり、学校・地域・家庭との連携など、妊娠・出産から学校教育に至るまでの様々な課題解決について、こちらの戦略で達成してまいります。

25 ページは「戦略3 地域躍動・元気まちづくり戦略」で、ここでは、中小企業の経営力向上、人材確保、町会・自治会、商店街づくり、地域コミュニティへの参加、生涯学習の場所の創出、図書館の地域情報拠点としての機能強化の推進、文化・スポーツのまちづくりの推進、交通ネットワークの充実、これらによって地域を活性化していくこととしています。

26 ページは「戦略4 共生・支えあい戦略」で、生活上の困難を抱える方への包括的な支援体制、地域共生社会への課題に対応、制度の狭間にある方への支援、多文化共生、外国人への支援、多用性に対する施策、高齢者の活躍や施設整備、障害者の方への対応、福祉人材の確保など、様々な部分で地域の皆で支え合っていくといった戦略となります。

27 ページでは、水害や様々な予測される災害への対策として「戦略5 防災都市江東戦略」で、無電柱化、木密地域の不燃化、水害対策、あらゆる事態を想定した連携、避難支援の体制整備、防災教育、防災リーダーの養成などといった内容を掲げています。

つづいて、「戦略6 オリンピック・パラリンピックレガシー戦略」で、2020年のオリンピック・パラリンピックのハード・ソフト両方のレガシーを残していくということで、江東区ブランディング戦略により住み続けたいという方を増やす、スポーツの振興により健康寿命を延伸、子どもたちのボランティアマインドの創出、ボランティア人材の育成や国際化の推進、観光・芸術文化の推進、持続可能な発展につながるまちづくりの推進し、ユニバーサルデザインを推進していくといったことなどがメインとなります。

最後に「戦略7 臨海部まちづくり戦略」です。先ほど中央防波堤のところで地元区として取り組んでいかなければいけないとお話ししましたが、こちらでは中央防波堤だけでなく臨海部のまちづくりの方針を示しています。例えば、他地域との回遊性の向上、豊洲市場の賑わい創出、南部地域の開発動向を踏まえた公共施設の整備などがあげられています。

第5章にはこの後お話しする分野別計画が入り、戦略1から7にそれぞれの分野別計画の施策がたくさんありますが、それぞれが戦略を進めるために取り組むべきものとしてここに記載されてまいります。

第6章は主要事業ということで、長期計画の実現のためにどのような施策やハード整備を行っていくのかということについて、10年分の計画を現在調整しております。

33 ページからは、資料編となっており、計画の策定にあたって実施した大学連携や区民会議、パブリックコメント等で意見を募っていることと、34 ページにその様子を掲載

しています。他、指標一覧、江東区の人口、SDGsの資料が添付されています。

骨子案の説明は以上です。

■会長

今説明のあった部分について、何かご意見はございますか。

■委員

まず、前提の確認として、ご説明いただいた長期計画の骨子案が前段のところで、分野別計画は第5章に入るという認識で良いでしょうか。

また、「戦略プログラム」の項目に関して、戦略プログラムの1から5は基本的に分野別計画の大綱に対応しているということによろしいでしょうか。

■事務局

そのとおりです。

■委員

戦略6と戦略7は対応する大綱がありませんが、それぞれの大綱に入れ込まれているということによろしいでしょうか。

■事務局

施策としては新しいものになりますが、例えばボランティアマインドの育成などは子どもの分野と関連するなど、それぞれの分野に含まれていることになります。

■委員

例えば戦略2と個別の分野別計画を見比べると、どのようなストーリーで並べられているのかわかりません。分野別計画では教育の問題がしっかり書かれていますが、ここではICT環境を整えるといった程度で矮小化されていると感じます。日本の社会自体が縮小してきており、また人手不足も深刻化している中で、今のサービス水準が保てなくなる問題がある。また今の学生を見ていると非常に内向きで、初等・中等教育が非常に大事だと感じています。

後の分野別計画にはしっかりと書かれているので、それと関連付けながら、どのような順番で書かれているのか、そこの物語性を示されたほうが良いのではないかと感じます。特に今のサービス水準の維持が厳しくなることや、人づくりに対する考え方については、しっかり書かれたほうがよいのではないのでしょうか。

■事務局

確におっしゃるとおり、小さい頃から教育までといった書き方で、ストーリー性は無いと感じます。戦略自体がどのようなことをするための戦略であるのかといった書き込みが必要であると思います。

■委員

分野別計画の内容は大変良くできていると思いますので、これまで議論をしたことを、戦略に置き換えていくのか、それがストーリーを持たせることだと思っておりますので、もう少し工夫が必要だと思っております。

■委員

私も同様な意見ですが、分野別計画の施策で書かれているのが「What」や「How」の部分なので、戦略の部分では何故その施策に取り組むのかの「Why」を書くとストーリーができるのではないのでしょうか。

■委員

見せ方として、12 ページの図に立体感が欲しいと思います。左上の「住みよさ～」が目的で、ほかの4つは手段ではないかと感じました。「住みよさ」が中心にあると立体感が出るのではないのでしょうか。

■事務局

12 ページの図表は施策の大綱の順番に従い整理し、SDGs の分野がどこに該当するかを図に示したものになっています。

■委員

全体を示す概要のデザイン案は、12 ページの図案を活用すると良いと考えます。丸が基調となったデザインは区民にも親しみやすい印象を与えますし、このデザインに分野別計画の主な施策を記載し、今のご指摘のように「住みよさを実感できる世界に誇れるまち」の配置する場所を検討したら良いものができるのでしょうか。

■委員

理解しやすくなると思います。

■委員

私はこのページが非常にいいと思ひまして、今回 SDGs が表に出てきており今の時世を示していて、この前のページの内容とこのページのデザインをつなげると良いものができると思います。

■委員

他の委員からの指摘があるまで、12 ページに記載されている項目が施策の大綱だと気が付きませんでしたので、この部分が全体を通しての柱になっているということを前面に出していただいた方がいいのではないのでしょうか。戦略プログラムと大綱との関連性がはっきりわかるようにしてほしいと思います。

■委員

区民の皆様が長期計画を見る時に、1枚で示される概要版は非常に重要であると思います。ここに良いデザインがあると思いますので、活用してはいかがでしょうか。

■委員

良い本は目次を見るだけで内容が理解できるものでして、一つの芸術だと思います。長期計画も完成しましたら私も学生の授業に使いたいと考えていますが、最初に学生がどのくらい興味を持つのかが一つの勝負だと思っていますので、そのためには全体の様子がわかるようなタイトルや施策の関連性が分かるような見せ方が必要かと思います。

また、番号の振り方として、ローマ数字が一番大きなタイトルになるかと思いますが、

一般的な規則がありますので、修正が必要かと思えます。

9 ページの公共施設の老朽化対策とありますが、ネガティブな印象がありますので、公共施設の再生など未来に向けた表現がよろしいのではないのでしょうか。

■委員

委員からも指摘のあった戦略プログラムの分野別計画との関係がどうかといった点について、現行の計画の「重点プロジェクト」に代わるものとして「戦略プログラム」となり、分野別計画の分量も増えて具体的になっていますが、その分野別計画の内容が戦略プログラムにリンクしていないような印象を受けます。そこをどのように解決するかですが、やはり説明はある程度必要かと思えます。戦略プログラムのページに3行程度記載がありますが、この部分に分野別計画をどのように戦略プログラムでどうしているかを半ページ程度使用して説明すれば分かりやすくなるのではないのでしょうか。

また、学校教育、特に公立学校教育をどうするか。学校教育について戦略プログラムにないとかかなり欠落感がありますので、ここで特出して戦略として扱わないといけな思います。

■事務局

確かに戦略プログラムと分野別計画の関係性がわかりにくいと感じておまして、それぞれの戦略の説明だけでなく、ご意見をいただいた関係性についても詳しく書き込んでいかなければいけないと思えます。

■委員

オリンピック・パラリンピックのレガシーや臨海部のまちづくりを横串として共通項目であることをここでは言いたいので、個別の分野については、本当はここで取り上げない方がいいのではないかと思います。

■事務局

並べ方についても議論があり、何度も試行したとございます。

■委員

むしろ大綱1から5は議論してかなり練られた内容になっていますので、戦略プログラムに掲げる5分野の重点としてオリ・パラと臨海部が横串で出てくるというイメージの方がよいのではないのでしょうか。現状では、戦略1から5が浮いてしまっています。

■委員

自治体の住民は具体的な話に興味がありますので、ここだけ読んでも分からないため、どうしても後ろの分野別計画を見なければならなくなります。そうすると、ここはあまり意味がないということになり兼ねないと思えますので、施策の根底にある思想について、ここで説明してもいいのではないのでしょうか。

■委員

戦略と施策という言葉を一一般の方が聞いて何が違うのかということになります。「ビジョン」としてどこを目指すのか、現状とビジョンをつなぐ筋道としての「戦略」、それを

数年単位で区切ったものが「計画」ということが一般的な考え方だと思います。皆様のいうとおりここでの戦略は浮いてしまっているのです、せっかく5つの施策の大綱は練れていますので、5つの枠組みは最初から示し、その中で語れない横断的なもので2つがあって、この7つで江東区は目指すところに近づけていくというストーリーを作るところがこの部分ではないでしょうか。あまり「戦略プログラム」を意識しなくともよいのではないかと思います。

■委員

強いて「戦略プログラム」というのであれば、オリ・パラと臨海部と南北交通の3本になるのではないのでしょうか。すべての分野を持ってきてしまっているのです、戦略にならなくなっています。

■事務局

「地下鉄8号線の延伸」が今回の一番の目玉となっていて、「戦略プログラム」は現行の計画の7つの「重要課題」に引っ張られている形になっています。戦略1から5は、どうしても行政としては基礎的な分野になりますので、戦略として出てきているところです。

■委員

行政はこれまで内向きだったイメージがありますが、これからは外向きに情報発信をしていく姿勢が必要だと考えます。行政がそれをまだイメージできていないのではないのかなと思います。

■委員

中央防波堤埋立地について、江東区の面積が増えたことですが、ここをどのようにするのかといったことが見えてこないと思います。公園にするということですが、それをどのように活用していくのか、もっとこのような楽しいことができるということを見せていった方がよいと思いますがいかがでしょうか。

■事務局

中央防波堤埋立地については、都と協議を進めながらはなりますが、区としては、ベイエリアとして中央防波堤埋立地だけでなく新木場など周辺と連携しながら活用していくことが目指す姿となります。

■委員

施策自体は目指す姿を達成するための手段にあたるもので、それをどのように使って、どう進めていくのかが戦略になると思います。そのことについて、戦略のところにもっと書いていただきたいと思います。

オリンピック・パラリンピックのレガシーと臨海部の開発と地下鉄8号線の延伸の問題については、重要課題としてこれからの10年で絶対に取り組んでいかなければいけないことであることを明確にメッセージとして伝えて、それを確認しながら新しい江東区の取り組みを進めるということをお伝えしなければいけないと思います。メッセージがきち

んと伝わるようなはっきりとした書き方にしていただいた方が良いのではないかと思います。

また、今回の計画ですが、これまでの10年の取り組みでここまで出来ていて、何ができていないのかについて書かれていません。それを踏まえた上で、今取り組まなければいけないことがあり、それを合わせることによって目指す姿へのストーリーができると思います。6ページにあるとおり、PDCAを回してきて、第1期があって、次の第2期という流れがあるので、この10年江東区として取り組んでこのような姿になりました、それを踏まえて次の10年でこういう姿にしたいのですというように、10年の成果と残された課題についてのメッセージを書いてはいかがでしょうか。

■事務局

各施策にこれまで10年の区の取り組みは書かれていますが、これ以外にも委員からご指摘いただいたことを記載しなければいけないと考えています。

■委員

おそらく2章になるのではないかと思います。これまでの10年の総括と策定時の社会動向と将来の予測の3部立てになるのではないのでしょうか。そうすれば、読む方にもストーリーが入りやすくなると思います。

■事務局

確かに「策定時の社会動向」には江東区以外の動向は書いてあるのですが、江東区自体の記載はありません。

■委員

そもそもですが、「重要課題」と「戦略プログラム」といったタイトルは、どのようにして決められたのでしょうか。重要課題は1ページで地下鉄8号線の話しかありませんが、課題はこれしかないのかと批判の対象にもなり兼ねません。重要課題であれば重要課題に絞り、重要課題の総括とどのような思想で進めるかをしっかり書けばよいのでしょうか。そうすれば方向性もはっきり見えてくるのではないかと思います。このタイトルを変えてしまうことも一つの案かと思います。

■委員

例えばですが、今の「分野別計画」を「重要課題」として捉え、最初に「戦略課題」としてオリパラレガシーと臨海部と地下鉄8号線を置くという案もあります。

■委員

そもそも施策の大綱の5つはなぜ選んだのかというストーリーがありません。今の素案では第5章「分野別計画」が各論になっているのですが、各論の中でいきなり5つの大綱が出てきてしまっています。本来この5つは総論に書かなければいけませんが、総論の部分がありません。「分野別計画」は縦割りであると言われますが、ここに書かれていることは色々な部署が協力しなければできないことであり、各論ではないのだと思います。「分野別計画」が計画の核となるものであり、そもそも名称がおかしいのかもしれない。

この5つの大綱が江東区の最もやりたいことであり、それを目指すために基本施策が重なっているのです。なぜこの5つの大綱が出てきたのかということを図などで説明し、それを実現するために基本施策があるということを整理する。そして、それとは別に10年間で実現しなければいけないこととして、オリパラレガシー・ベイエリア・地下鉄8号線を記載する、そうすればメリハリが出てくると思います。そうすると、この「戦略プログラム」は、いらなくなるのだと思います。計画をシンプルにして、プロセスがきちんと伝わるようにしないとはいけません。

■委員

10 ページ「計画推進の視点」の前段に「行政だけが地域課題解決の主体ではない」とあり、この考え方には賛成です。そのうえで、区民アンケート概要版13 ページ「地域コミュニティの活性化」の問11で地域活動の参加について調査していますが、地域活動に「まったく参加したことがない」方が6割近くとなっています。これまで福祉や教育には専門家のみが係わるといったことが常態でしたが、介護や教育は地域でやろうという方向が出てきている中で、いざ地域でとなった時に、このアンケートの結果の「よく参加している」や「ときどき参加している」と回答している2割の方に負担が集中してしまい、抱えきれなくなることが懸念されます。協働意識の底上げに踏み込んだ書き方にしないと、この先行き詰ってしまうのではないかと感じます。

■委員

関連して、地域活動に参加したことがない方の意見を聞いてみると、「参加の仕方がわからない」ということをよく聞きます。参加しやすければ参加したい方はいるので、「参加しない」という数をどう解釈するかということになりますが、参加するように啓発するのか、参加の仕方を易しくするのか、どちらにするのか、その辺りの書き方を検討する必要があります。

■委員

学校教育の施策に地域学校協働本部があり、そのあとにも地域コミュニティの施策があり、地域活動についてバラバラに書かれています。協働の視点を出されたのであれば、何をどのようにしたらそれができるようになるのかということを考えてときに、例えばこれからの一つの核として地域学校協働本部があげられます。地域の活性化の一つの手段として学校を核にしながら地域づくりをすれば、地域学校協働本部を糸口にして地域コミュニティを作り、最終的に防災や高齢者支援につなげていくという道筋ができます。単に学校との連携、学校教育ということだけで地域学校協働本部を使うのではなく、全体的な協働ということで整理してはいかがでしょうか。

■委員

22 ページの「戦略プログラム」に「チーム江東が一丸となって」という記載がありますが、今言われていることを一言で表そうとしたものかとは思いますが、突然出てきた言葉になるので、もう少し深掘りの方が区民に浸透しやすいのではないのでしょうか。

■委員

「チーム〇〇」という言葉はよく使われていますが、その構成員が誰なのか、誰が主語なのか、ということをはっきりさせないと絵に描いた餅になってしまいますので、具体的に記載しないといけないと思います。

■委員

「協働の視点に立った課題解決」の文章の最後では「推進します」という記載になっていますが、主体は区民や団体であるので「推進し、取組を支援します」といった表現になるのではないのでしょうか。読むのは区民ですので、その方が理解しやすいと思います。

■会長

以上で、本件は終了いたします。

4. 分野別計画（素案）について

■会長

「4. 分野別計画（素案）」を議題といたします。

事務局よりご説明を願います。

■事務局

資料4をご覧ください。前回の策定会議で素案をお示し、その後いただいたご意見等を反映いたしました。また、この間区民アンケートを実施し、成果指標の現状値を取得したことを踏まえまして目標値を設定し、こちらも反映させております。変更箇所につきましては、配布資料の参考3にまとめております。例えば、「2 分野ごとの修正」をご覧くださいますと、施策1では施策名を変更しており、江東区らしい「CITY IN THE GREEN」を盛り込むなど、わかりやすいことと関心をもっといただけるような表現に修正を行っております。また、指標のわかりにくい箇所には説明を入れたほか、取組方針についてはそれぞれ添削を行っております。

参考1で配布しております、区民アンケートの概要版をご覧ください。4ページをお開きいただきますと、調査概要を記載しております。調査方法のとおり、無作為で抽出しました18歳以上の区民、3,000人を対象に、調査を実施しました。有効回答数は1,457票、有効回収率は48.6%となっております。回答者の類型や設問ごとの回答率についてもまとめておりますので、後ほどご覧ください。

参考2は、今回実施した区民アンケートで取得する以外の指標も合わせて、現状値や5年後の目標値、その考え方について、所管課の見解をまとめた一覧でございます。目標値の設定ですが、国・都の計画や個別計画との整合性、本区のこれまでの取り組みの動向や指標の推移を踏まえての区の水準や伸びしろを考慮し、設定をしています。こちらの値についても、分野別計画の指標の欄に反映しております。

その他、大きな変更点として、施策20「障害者支援と共生社会の実現」ですが、策定会議での委員の皆様より多くのご意見をいただいたことを踏まえ、多くの修正を行ってお

ります。

説明は以上です。

■会長

ありがとうございました。何かご質問等はございますか。

■委員

施策4「良質で多様な保育サービス」という表現は担当課に了承されているのでしょうか。

■事務局

そのとおりです。

■委員

他区では認可保育所の整備に追われており、質的な分野は先送りとなっていることが多いと言われています。その中で、この表現は大変前向きな表現で良いと思います。

■委員

施策6「一人一人に向き合う学校教育の充実」で、外国語教育を英語教育に変更した理由はなぜでしょうか。

■事務局

担当課に確認して回答させていただきます。学習指導要領上かもしれません。

■委員

先ほどの発言に関連して、施策7「多様なニーズに応じた教育環境の整備」の中に、取組方針3「学校・地域・家庭の連携の推進」があることに違和感を覚えます。例えば、施策8「こどもが安全に過ごせる居場所・環境づくり」の取組方針2に地域という言葉がありますので、地域と連携しながらという視点であれば、こちらに移すことも考えられます。施策7の指標に「地域学校協働活動に参加したことのボランティア数」がありますが、この施策の目指す姿とも合わないと思います。「学校支援地域本部」が「地域学校協働本部」に変わったのは、社会教育を通じて放課後活動を充実させるなど地域の核としての学校を目指していくということですので、「多様なニーズに応じた」ということには当たらないと思います。

■事務局

施策8の方が適切ということでしょうか。

■委員

放課後の居場所づくりという方向性にするのであればということになります。事業の方向性をどうするかは区の判断によりますので、それによって記載する場所は変わってきます。

■委員

「多様なニーズに応じた」という表現をつかっていますが、誰のニーズなのでしょう。この表現ではニーズの主語がわからないので、目指す姿にある「全ての児童・生徒が」というような表現にした方が適切なのではないでしょうか。

■委員

取組方針1には「児童・生徒一人ひとりの教育ニーズを適確に把握し」とありますので、個に応じたニーズかと思えます。ただ、「多様なニーズ」であると範囲を広げている印象があるので、誰のニーズかというのを明確にするということで、「個に応じたニーズ」といったような表現に変えるということも考えられます。ちなみに、なぜ「多様なニーズ」に変えたのでしょうか。おそらく、不登校や発達障害のこどものニーズということで、文部科学省で使われている表現であるからだとは思いますが。

■事務局

取組方針1に基づいています。

■委員

施策7では、例えば障害を持つ子どもやいじめにあっている子どもにも個別に対応するということが書かれていて、「個のニーズ」としてしまうと個別過ぎてしまうので、「多様なニーズ」という表現でも問題ないかと思えます。

■委員

児童相談所を作ることが決まったのでしょうか。

■事務局

整備することが決まりましたので、記載内容を修正しました。

■委員

ここで明記することは、非常に意義があると思えます。都の制度とは違う児童相談所にしていかなければいけません。現在の都が直轄するという制度は限界がきており、区が実施する方が地域の問題を把握できるため良いと考えます。都は専門性が必要といいますが、専門性だけではなく行政としての判断が必要で、そのためには地域の実情を把握していなければいけません。

■委員

庁舎に関する記述も今回の新規項目ですね。

■事務局

今回方向性を示させていただきました。

■委員

私は、職員の働きやすい環境を作るといった旨を盛り込むべきであると考えます。採用困難になっている現在で、優秀な人材を確保するためには職場環境を良くすることをしないといけないと思えます。区民の生活が優先ということは理解しますが、良い仕事をするためには職場環境が劣悪ではいけないと思えますので、遠慮せずに記載すべきではないでしょうか。

■事務局

これから新庁舎の整備に向けて基本構想を策定していくことになりますが、行政だけでなく議会、区民あるいは学識経験者の方々から幅広く意見を聞いて、皆が使いやすい

庁舎としていけるよう検討していきたいと考えています。

■委員

区の職員も多様な方が働けるような環境にしなければいけないのではないのでしょうか。

■委員

その視点は重要です。例えば、LGBT に対応したトイレや更衣室などが必要です。東京都では、男女別の採用試験の廃止や、LGBT に配慮するように人事委員会へ措置要求をするなど、多様性を重視するような潮流にあります。

■委員

だれでもトイレが職場の各階にないなど、ユニバーサルデザインの対応には改善の余地があると感じました。

■委員

トイレにしても、本当は男性用、女性用、車イス用、車イス用以外のだれでもトイレが必要です。障害者雇用も法律で義務付けられていますので、色々なことを考慮することが必要で、職員を無視した設計ではいけません。

■委員

江東区の職員として働きたいという環境にしていきたいと思います。

■委員

区民にとって利用しやすいということは当然で、職員にとっても働きやすくなければ区民にとってもよろしくないのだと思います。

■事務局

長期計画の前期で検討することになると思いますが、ご指摘の点を踏まえて進めてまいります。

■委員

一世帯当たりの人員が江東区では増加する予測となっていますが、これは都の予測とは反対になりますが、理由はどのようなもののでしょうか。社会的な傾向として、日本全体では世帯の細分化が進み、この状況が地域包括ケアシステムの構築やアウトリーチの必要性の根拠となっています。江東区のみ増える理由が、人口推計の手法にコーホート方式を使用しているということだけでは説明がつきませんので、理由を整理しておく必要があります。

■事務局

江東区では、子育て世帯向けマンションの増加が考えられます。地方では一人暮らし高齢者の増加により世帯数が増えています。

■委員

他にも離婚率の上昇もありますね。確かに江東区では、マンションの増加は一因であると考えられます。

■委員

施策 15「文化・歴史の継承と観光振興」の取組方針 3「地域資源を活用した観光振興」に、以前の策定会議での私の指摘を踏まえ、「観光キャラクターの活用」という文言が設けられており、大変満足しました。

■会長

以上で、本件は終了いたします。

以上で予定されておりました議題は全て終了いたしました。事務局より連絡事項がありましたらお願いします。

■事務局

本日の会議でご説明した内容につきましてご意見・ご質問等がある場合には、お手元に配付しております意見メモにご記入の上、12月6日（金）までに事務局にご提出ください。

今後のスケジュールですが、12月中旬に長期計画の素案として議会に提出し、説明して参ります。そこでの意見や委員の皆様からの意見を踏まえまして、会長とともに事務局にて修正を行います。整いました資料につきましては、皆様にメール等でご提示させていただきたいと思っております。また、2月上旬に区議会に最終的な案として説明をしまして、確定ということになります。

次回の策定会議については、最終報告という形で、2月上旬から2月中旬に開催させていただきたいと思っておりますので、具体的な日程につきましては、メール等で調整させていただければと思っております。

事務局からの連絡事項は以上でございます。

■会長

ありがとうございました。何かご質問等がございますか。

（質疑無し）

それでは、本日の会議はこれで終了いたします。

なお、この後、小委員会を開催いたしますので、小委員会の委員の皆様は、お残りいただきますようお願いいたします。

委員の皆様、本日は、ありがとうございました。

以上